

# 南会津 のうりんニュース



## 今月の写真:「白銀の絨毯上を走る電車」(田島町長野)

落葉を見ながら、晩秋の余韻を楽しみたいところですが、暦の上では、着々と季節の移行が進んでいるようです。皆さん、冬への準備は進んでいますか？

いよいよ、紅い世界から、白い世界へ突入です。

## 今月の内容:

- 今月のトピックス
  - ・南会津地方ちびっこ“おいしいごはん”講座を開催！
  - ・農産物加工に関する視察を実施！
  - ・毎月8日は「ごはんの日」をPR！ 他
- 特集！
  - 遊林農地解消に向けた県支援事業の活用について
- 集落営農推進情報
  - 田島町の集落営農の推進が本格的に始まる！
- お知らせ
- 南会津の名水の話
  - 樺坂の清水(檜枝岐村産業建設課)
- 今月のコラム

平成17年12月12日発行 福島県南会津農林事務所

## 今月のトピックス

### 南会津地方ちびっこ“おいしいごはん”講座を開催！

ごはん食の健康性や米飯給食に対する理解を促すことなどを目的として、去る10月29日に、南会津地方ちびっこ“おいしいごはん”講座を開催しました。

当日は、田島町・下郷町の小学生とその親の20組(46名)が参加しました。

午前、下郷町学校給食共同調理場栄養技師の相原由美子先生を講師として、地元産食材等を使用した調理実習(カリカリチキン丼、森のきのこごはん、手作りがんもどき、そばの実けんちん汁、リンゴジャムヨーグルト)や、ごはん食の健康性を勉強する講習会等を実施し、昼食には参加者全員で自らが作った料理の試食会を行いました。



また、午後には、施設見学会(会津天寶醸造株式会社(会津若松市))を行い、地元の原料(米や大豆、野菜)が製品(味噌や漬物)になるまでの製造過程を見学しました。更に移動するバスの中では農産物に関する勉強会(クイズ大会)を行うなどとても楽しい講座となりました。

ごはん食の健康性や農産物の製造過程を勉強すること

ができたこの講座をきっかけに、これからも健全な食生活を実践していきたいですね。

(地域農林企画室、農業振興部)

### 農産物加工に関する視察研修を実施!!

去る10月26日に、南会津郡内で農産物を加工・販売している生産者を対象に、「ふるさと南会津ツーリズム講座」《南会津地方振興局などとの連携事業》におけるアグリビジネス講座視察研修として、栃木県さくら市「マザーズ21(喜連川農産加工グループ)」さんと栃木県那珂川町「工房米夢」さんの視察研修を実施しました。

視察先のグループの主な特徴は次のとおり。

- ①グループの活動開始時に、加工所を新たに建てるのではなく、既存の施設・設備を利活用して低コスト化を図っている。
- ②町や県の行政と連携して活動しているが、行政に頼りすぎず、自ら率先して取組まれている。
- ③自分たちが作った、又は地元で生産された農産物を上手に利用し、加工品の製造・創出を行っている。

視察参加者たちは、他地域のグループの意気込みや努力などの取り組み事例を熱心に勉強していました。今後この視察研修を契機として、南会津地域の女性農業者等の活動が、上記二つの視察先の様に、地域農業の活性化の一翼を担う活動に発展することが望まれます。

(地域農林企画室、農業普及部)





## 毎月8日は「ごはんの日」PR!

去る11月8日(火)、ヨークベニマル田島店前、リオンドール田島店前において、毎月8日の「ごはんの日」、県産オリジナル米「ふくみらい」と「南会津産米」の消費拡大のPR活動を行いました。



ごはんを中心としバランスのとれた食生活を「日本型食生活」と言い、栄養的にも大変すぐれ、生活習慣病の予防にもつながると高く評価されています。

当日は、県のマスコット「キビタンファミリー」も加わり「ふくみらい」のサンプル米と「南会津産ひとめぼれ(JA会津みなみ提供)」のサンプル米、パンフレット、チラシを買い物客らに配布しました。また、今回は町村職員、JA職員の方にも御協力いただき、より一層「県産米」の消費拡大のPRができました。

これからも、もっともっとたくさんごはんを食べて健康を保ちましょう!!

(農業振興部)

## 南会津の農業体験ツアーを実施!

首都圏在住の皆様へ南会津郡の魅力を味わっていただく滞在型農業体験モニターツアーを去る11月1・2日の両日に19名の参加者にて実施致しました。

このモニターツアーは、南会津地方グリーン・ツーリズム推進会議(会長:JA会津みなみ星専務)とふるさと南会津パートナーシップ推進協議会(会長:下郷町商工会稲本事務局長)との共催により、JA会津みなみ旅行センターが中心となり企画・実施しました。

『南郷トマト“もだっくうし”と南会津体験の旅』という旅行商品として、南会津郡内で1日目は各町村ごとに少人数のグループにわかれ、2日目は参加者全員で、下表の体験活動を行いました。

秋晴れに恵まれた両日、各参加者は、楽しそうに充実した秋の南会津を満喫していました。なお、参加者の半

1日目		2日目
町村名	ツアータイトル名	南郷トマトの“もだっくうし”体験 (栽培終了後のトマトの残果収穫とトマト株を片づける作業体験)
田島町	畑の冬支度体験	
館岩村	館岩名産の赤かぶ収穫と赤かぶ漬物づくり	
伊南村	秋の味覚新そば! 新そば打ち体験	
南郷村	川魚の薫製作り体験	

南郷トマトの“もだっくうし”体験

分は、南会津のリピーターでした。

国内観光業で、農業を基にしたツアーが活発になりつつある現状において、このツアーの実施により関係者が得た経験は大きなものがありました。今後、この経験を活かし、関係者が協力して南会津のグリーン・ツーリズムをより一層発展させて行く予定です。

(地域農林企画室)

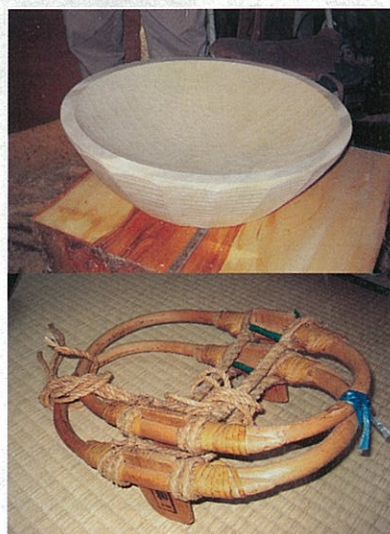
## 山人(やもうど)の技を後世に!!

檜 枝岐村で木工工芸品を作ってきた山人の技術を伝承し、世間に伝える「山人伝統的工芸品振興会」が11月2日に設立されました。

村には木を原材料として、はんぞう、かんじき、杓子、曲輪などを作る山人の技が今も残っていますが、技術を持つ人たちの高齢化や原材料の調達の問題などで技術の伝承が危ぶまれているため、村内の6人の山人が発起人となり設立したものです。

設立総会では会則の制定や会長に平野和利氏を選出し、今後の活動として、県内各地で工芸品を紹介するほか、村内の子供達等に山人の技を伝えていくこととしています。

(森林林業部)



(上写真) はんぞう

(下写真) かんじき

## 青年農業者等活動発表会を開催

去る11月22日、新規就農者・青年農業者の資質の向上、経営の安定化を目的に「平成17年度南会津地域青年農業者等活動発表会」を開催しました。新規就農者、青年農業者、先輩農業者として指導農業士・青年農業士、認定農業者会代表、関係機関・団体等40名が参加しました。

はじめに、新規就農者が就農1年目の活動や将来への熱い思いを、次に「緑のふるさと協力隊」と「南会津農業青年クラブ」が各々の活動状況やプロジェクト活動を発表し、参加者全員で活発な意見交換を行いました。この発表会や農業青年クラブ主催による懇親会により新規就農者と地域農業者の連帯意識が大いに高まりました。

今後も地域が一丸となって新規就農者の確保・育成に取り組んでいきたいと思ひます。

(農業普及部)







## 特集！

### 遊休農地解消に向けた 県支援事業の活用について



福島県における遊休農地は年々増加しており、なかでも南会津地方における遊休農地の現状は2005年農林業センサス(概要)においては827ha(概数値)となっています。

県では遊休農地発生防止のための活動や、遊休農地を利用して行う様々な活動への支援として、恵みの農地再生事業(遊休農地の保全活動推進を目的とするサポートタイプ、遊休農地の再整備を目的とした整備タイプ、整備された遊休農地の活用を目的とした活用タイプ)を実施してきており、平成17年度

は南会津地方ではサポートタイプ4件、整備タイプ2件、活用タイプ3件の取組みがなされています。

田島町、下郷町、館岩村、只見町では農業委員や認定農業者が中心となり、コスモスのは種によるデモンストレーションや「一斉耕起の日」が実施されるなど町村全体で遊休農地解消に向けた積極的な取り組みが行われました。

また、事業を活用した遊休地の整備・活用の動きも活発に行われ、整備したほ場を活用したそばや牧草の作付がなされま

した。なかでも、田島町水無地区においては水無そば組合により約12haの遊休農地を活用したそばの栽培が行われ、今後も一層の遊休農地解消



遊休農地を利活用したそば栽培

に向けた取り組みが期待されています。

「貴重な財産である農地を荒らさないようにするとともに、遊休農地の再活用で活力ある地域づくりを目指しましょう。」  
(農業振興部)

### 集落営農推進情報

#### 田島町の集落営農の推進が本格的に始まる！

集落営農の推進にあたっては、町村の営農スタイルに応じて様々な取り組み方法がありますが、今回はその一つとして田島町を紹介します。

田島町では、役場農林課と農業委員会、JA会津みなみ田島支店、南会津農林事務所農業普及部が集落営農の推進方法などについて、6月から月に2回のペースで検討会議を重ねてきました。

その結果、全集落を対象として、集落の自主性や主体性を尊重して集落営農を推進することになりました。

そのきっかけとして、9月16日に「集落営農推進研修会」が開催され、「なぜいま集落営農なのか」などを学びました。さらに、集落の主体性を重視する観

点に立ち、座談会の準備が整ったところから順次話し合いを進める「集落からの手挙げ方式」が採用されました。

10月末から始まった座談会には、関係機関の担当者も同席し、これまでに12集落で第一回目の集落座談会が開催されました。座談会では、出された意見等をその場で書き留めていくというワークショップの手法が活用されている点も、特徴的な取り組みと言えます。また、集落が主催する座談会であることも要因し、参加者も多く、活発で多様な意見が出されています。

このように、田島町では、『集落営農＝「集落での話し合い⇒合意づくり」』という地に足の着いた話し合いの第一歩を踏み出したところです。今後とも、集落の皆さんの知恵と工夫を活かした「オラがムラ」の特色のある集落営農が進むことを期待しています。

(農業普及部)

### お知らせ

#### 「緑のふるさと自耕塾」第2回参加者募集

～山村地域体験で自分を見つめる若者自立事業～

田島町企画振興課

田島町では、農林業のお手伝い、保育所の補助など日々体験できない地域活動を通し自分探しに挑戦する若者を全国から12名受入れて、9月より“自分探しの3ヶ月のプログラム”を実施しています。

そこで、第2回目を実施するため参加者を募集しております。

実施期間：平成18年1月5日～3月31日(3ヶ月間)

活動場所：福島県田島町

年齢：18歳～35歳まで男女は問いません

募集締切：平成17年12月27日まで

(応募先及び問い合わせ先)

〒967-0004 南会津郡田島町字大坪508-3

地球緑化センター田島分室

電話0241-62-4020(山内)



## 南会津の名水の話

### 撫坂の清水 (檜枝岐村)

檜枝岐村産業建設課

檜枝岐村の国道352号線を御池方面へ向かう途中の道路脇に「撫坂の清水」があります。この辺一帯はブナ林が殆どであり、道路が坂道であったことから昔から「撫坂」と呼ばれております。ブナ林の中から湧き出る水が斜面の石を避けるようにして流れており、新緑や紅葉の時期になると、写真を撮影してい



る人々も多く見かけられます。近くには「モーカケの滝」や「撫平(ブナ平)」等があり、自然の美しさを感じられる区域です。

## 今月のコラム

### 日本人の精神の基、陰陽五行

**【玉】** 立国会図書館の蔵書の中に私の執筆した幾つかの書物があります。この機会にかつて自主研究した陰陽五行について紹介させていただきます。

「陰陽五行」は、古代中国で生まれた哲学であり科学で、「陰陽」とは太陽と月。「五行」とは「木、火、土、金、水」のことで森羅万象はこの五つの要素の組み合わせから成り立っているとします。奈良時代に日本に伝わり、これが私たちの生活様式やものの考え方に強い影響を与えました。

今でも各種の年中行事、神事、暦占、家相、日本料理などに容易に見いだすことができます。

- ① 曜日を表す「日月火水木金土」の文字は、陰陽五行から成り立っています。
- ② 江戸時代までの時刻は、子・丑・寅から始まる「十二支」で表していました。現在使われている午前、正午、午後という言葉は、明治五年の太政官布告によりますが、午前十一時から午後一時までの時

刻を示す午刻に由来しています。「正午」の本来の意味は「午前十一時から午後一時の間」というものです。今から約二千年前の殷王朝で創られた文字が使われています。

③ 六十歳を「還暦」といいますが、これは六十年を一巡とする昔の暦の数え方によるものです。つまり「暦が還る」ことは大変長い年月が過ぎたことからきています。

④ 契約書や書面に朱色の印を押しますが、これは朱色の印を押すことで全てのものを吉に変えてしまうという陰陽の思想に基づくものです。

江戸時代まで朱印は特別のもので高貴な方以外が使うことを禁じていました。朱色の印泥が一般的に使われるようになるのは明治以降のことで、それまでは黒色の印泥が用いられていました。

⑤ 注連縄の捻れは、先端に向かって「左捻り」(=反時計回り)になっています。また、大相撲で力士が土俵を廻るときも左廻りですし、神楽も左廻りです。これは左方向に廻る動きが、穢れを祓い悪霊や邪気を退散させ、神を招くと考えられたことによります。

年末に注連縄を飾り、よい歳をお迎えください。

(農業普及部地域農業推進グループ課長 吉田文弘)



### お問い合わせ先はこちら

〒967-0004

福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所 地域農林企画室

TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256

電子メール [minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp](mailto:minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp)

ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/norin-minamiaidu/>



みなさんのご意見・ご感想をお寄せください。

**R100** PRINTED WITH SOYINK™

古紙配合率100%再生紙を使用しています。  
この広報紙は古紙配合率100%再生紙とSOY(大豆油)インキを使用しています。